

# あ い さ つ

金沢大学教育学部附属養護学校

校 長 山 口 務

本校は昨年度創立30周年を迎えることができました。この30年間で振り返ってみますとまさに隔世の感があります。創立当時、特殊教育は“特殊な世界”でありました。教師の数は少なく、多くの子どもたちは就学猶予という形で学ぶ権利を奪われていました。現在、昭和54年度の養護学校教育の義務制施行を初めとして子どもたちが養護学校で学ぶための諸条件が整ってきました。子どもたちは障害にも負けずに毎日元気に学校に通ってきています。

本校では昭和63年度からプロジェクト方式による研究を5年間進めてまいりました。その5年間の実践の中で多くの成果を得られたものと自負しております。今年度は「豊かな心と生活をめざして」というテーマで研究を進めてまいりました。研究体制も過去5年間の成果を受け継ぎ、学校全体の教育に浸透させるべく、学部単位での研究としました。

義務制施行以来16年を経た現在、養護学校では児童・生徒の障害の重度化・多様化・重複化が大きな問題となっております。またそれに伴って教育の質の充実が求められています。これはとりもなおさず子どもたちが毎日通ってくる学校生活そのものの質を向上させ、心豊かな生活経験を積ませることに外なりません。それはそのまま“豊かな心と生活をめざした”活動であると言えます。

養護学校教育においては教育施設などハードの面では確かに充実してきました。だからこそソフトの面の充実が急務だと言えます。今年度掲げた「豊かな心と生活をめざして」というテーマは哲学的ではあると思いますが、まさにこのソフトの面にねらいを定めたものであります。このテーマに沿って小学部、中学部、高等部の各発達段階に応じた活動の実践を進めて参りましたが、この度研究紀要の形でまとめることができました。皆様からの忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いに存じます。

平成7年2月